

TARO RACE REPORT

TARO SEKIGUCHI SANMEI Team TARO PLUSONE

2024

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP



2024 56th
MFJ GRAND PRIX
SUPERBIKE RACE in SUZUKA

2024 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦

■ 三重県
■ 鈴鹿サーキット
■ 1周 = 5.821km

■ クラス / JSB1000
■ マシン / BMW M1000RR
■ タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 #12 関口 太郎

RACE 1

10月26日(土) 天候: 曇り コース: ドライ

予選 12番手 (タイム: 2分06秒358)

決勝 12位

RACE 2

10月27日(日) 天候: 曇り コース: ドライ

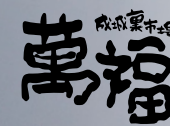
予選 13番手 (タイム: 2分07秒097)

決勝 8位

SDG



三明電気工事



Motorcycle CS2



自己ベストを更新！レース2でシングルフィニッシュを果たす!!

早くも最終戦を10月26日・27日に三重県・鈴鹿サーキットで迎えた全日本ロードレース選手権。関口は、昨年に続きドイツのアルファレーシングから“Type7”と呼ばれるキットエンジンにエンジニアのジュリアン・ベニッツに来てもらうパッケージで挑んだ。ジュリアンは、今年の鈴鹿8耐は別チームの担当となってしまったが、昨年は鈴鹿8耐と全日本最終戦で担当してもらい、仕事の能力や進め方が分かっていたため再び指名した。



今年も最終戦は事前テストがなく、木曜日の特別スポーツ走行からレースウィークがスタートした。まずは、去年の最終戦と今年の鈴鹿8耐のデータをミックスし発展させたセットで走り出すものの、フィーリングは今ひとつで攻められる状態ではなかった。木曜、金曜と30分のセッションが2本ずつと限られた時間の中で、タイヤ選択も含め、マシンセットを進めながら、金曜日の2本目によりやくまとまってきた感じが出て来たこともあり、ユーズドタイヤでロングランの感触もつかみつつ、土曜日の予選、レース1に向けての見通しがついてきていた。



公式予選では、昨年出した自己ベスト2分06秒589を更新するのが目標だったが、あくまでもアベレージを上げることを一番の目的としていたためタイム更新は難しいかとも思っていた。セッションが始まると、まずは集団の中で様子を見るが、けん制し合い走りにくい状態のためピットイン。マシンをアジャストし、そのままユーズドで出て行きアタックすると2分07秒521が出て良い手応えだったためピットイン。ニュータイヤを履き、タイムアタックに入ると2分07秒232を記録すると、その次の周に2分06秒352をマーク！ 自己ベストを更新することに成功。計測最終周に2分07秒097を出し、これがセカンドベストとなった。



14周で争われたレース1は、スタートはまずまず決まり、11番手でオープニングラップを終えると前の集団を追っていく。3周目に日浦選手にかわされ12番手となるとペースが落ちて来た長島選手が前に来る。何度か仕掛けていくが接触しそうな場面も少なくなかった。レース2もあるため、リスクを避けて12位でゴールすることを選んだ。



レース1でのフィーリングは悪くなく、レース2に向けて朝のウォームアップ走行で違うセットを試したが、思っていた方向にいかなかったため、さらに逆の方向にセットを振りレース2に挑むことにした。

2024年シーズン最後の決勝となるレース2。スタートを決めた関口は、3コーナーでヨシムラの渥美選手をかわしポジションアップ。しかし、NIPPOコーナー立ち上がりで大スライドを起こすが何とかハイサイドにならずに戻る事ができ、オープニングラップは10番手で戻ってくる。2周目に渥美選手に抜き返されるが、3周目に前で2台転倒があり9番手に浮上する。その後は、前のライダーを追いながら



2分07秒台から2分08秒前半で周回。9周目に2台が転倒するアクシデントが発生しセーフティーカーが介入。残り3周でレースは再開されると、前で転倒、コースアウトがあり7番手に浮上。15周目に1台にかわされるが、8位でチェッカー！ シングルフィニッシュで2024年シーズンを締めくくった。



今シーズンも多くの皆様に支えられ無事に最終戦を終えられたことを感謝申し上げます。開幕戦でケガはありましたが、その影響も最小限に抑えられたと思います。今年も最終戦には、アルファレーシングのジュリアンに来てもらい、Type7エンジンで臨みました。いつもと違う風景の中、自己ベストを更新することができましたし、まだ自分自身の進化も感じる事ができました。後半戦に入り、現状のパッケージでの限界も感じられましたし、次のステップに行くには、様々な課題があるのは分かっています。2025年シーズンも全力で戦えるように、まだまだ頑張ります。引き続きTeam TAROに応援、ご協力をお願いいたします。

関口 太郎

